

国立国語研究所学術情報リポジトリ

八丈町の「八丈方言」継承の取り組み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002409

八丈町の「八丈方言」継承の取り組み

茂手木 清

『八丈語？消滅危機言語』のリストに加わる」と2009年2月の朝日新聞に掲載された記事は、八丈島に住む島民にとっては、少なからず驚きだった。記事では「ユネスコの調査によれば、日本では沖縄の言葉など8言語が消滅危機言語リストに挙がった」と報じた。これは、昔から話されてきた故郷の言葉が、何もしなければ近い将来、消滅してしまうということを意味している。

この記事を受けて、八丈町教育委員会が中心になって「八丈方言を知り、伝える活動」を始めたのは、2009（平成21）年度からである。以下4年半の取り組みを記す。

1. 学校教育での取り組み

①実態調査（全小・中・高校生）

ユネスコのリストに挙がった理由のひとつが「子どもが話さない」ということであったので、島の子どもたちの実態を知る必要があると思い、アンケート調査を行った。島の全小中高年生（2010年9月758人）を対象に、八丈方言語彙調査を実施した。12の比較的良好に使われる名詞、形容詞、動詞などの言葉を選び「知っているか」「使っているか」を問うた。この調査は、2013年10月にも同様な調査を行い、比較とともに、その後の活動の参考にした。

次ページがその結果の表とグラフである。人数は2010年（758人）2012年（748人）である。調査の「知っている」の項では、2010年の調査より、2012年の方が数値はどの言葉も増えている。これは取り組みの反映である。特に比較的良好の低かった「あっぱめ」（赤ん坊）「たこうな」（竹の子）が、2012年の調査では、それぞれ+38%、+23%と増えている。この二つの言葉は「島ことばカルタ」の中の言葉にでてくる言葉であり、学校や家庭等で取り組み始めた成果といえる。逆に、「ねっこけ」（小さい）や「まじける」（なくす）などの形容詞や動詞については、伸びが少ない。この結果、カルタに書かれた言葉は認知度が高くなるが、そうでない言葉については、相変わらず低いのである。

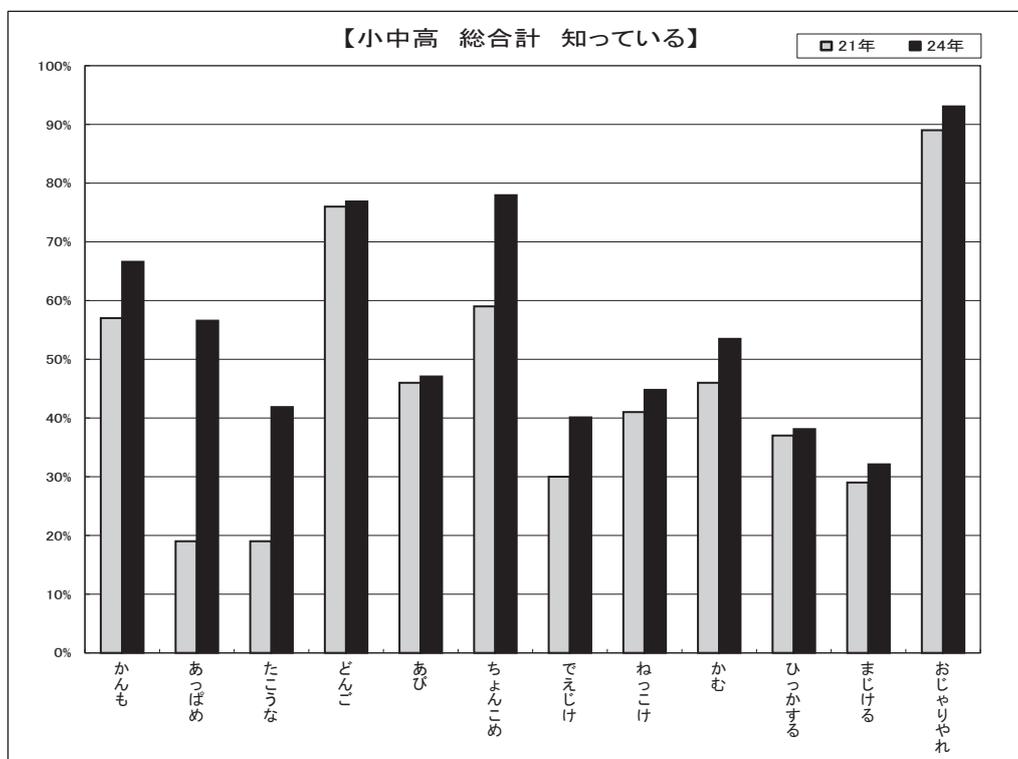
次に「使っている」（表2・グラフ2）の項では、どの言葉も2010年次の調査でも低く、10%台の言葉がたくさんある。これは、八丈方言は知っていても、実際の生活の場（家庭・地域・学校）では使っていないことを意味している。このままでは、次の世代に継承していくことは、不可能であり、ユネスコの指摘の通り、八丈方言は「危険」というランクになっているのはうなずける。

また、取り組みを始めてからの、2012年の調査でも「使っている」については、数値は上がっていない。特に、動詞、形容詞の類は死語に近いと考えられ、「でえじけ」などは、マイナスの数値になってしまっている。

表1 「知っている」比較

小中高 総合計 比較
「知っている」748名

調査八丈語	21年	24年	増減
かんも	57%	67%	10%
あっぱめ	19%	57%	38%
たこうな	19%	42%	23%
どんご	76%	77%	1%
あび	46%	47%	1%
ちょんこめ	59%	78%	19%
でえじけ	30%	40%	10%
ねっこけ	41%	45%	4%
かむ	46%	53%	7%
ひっかする	37%	38%	1%
まじける	29%	32%	3%
おじゃりやれ	89%	93%	4%

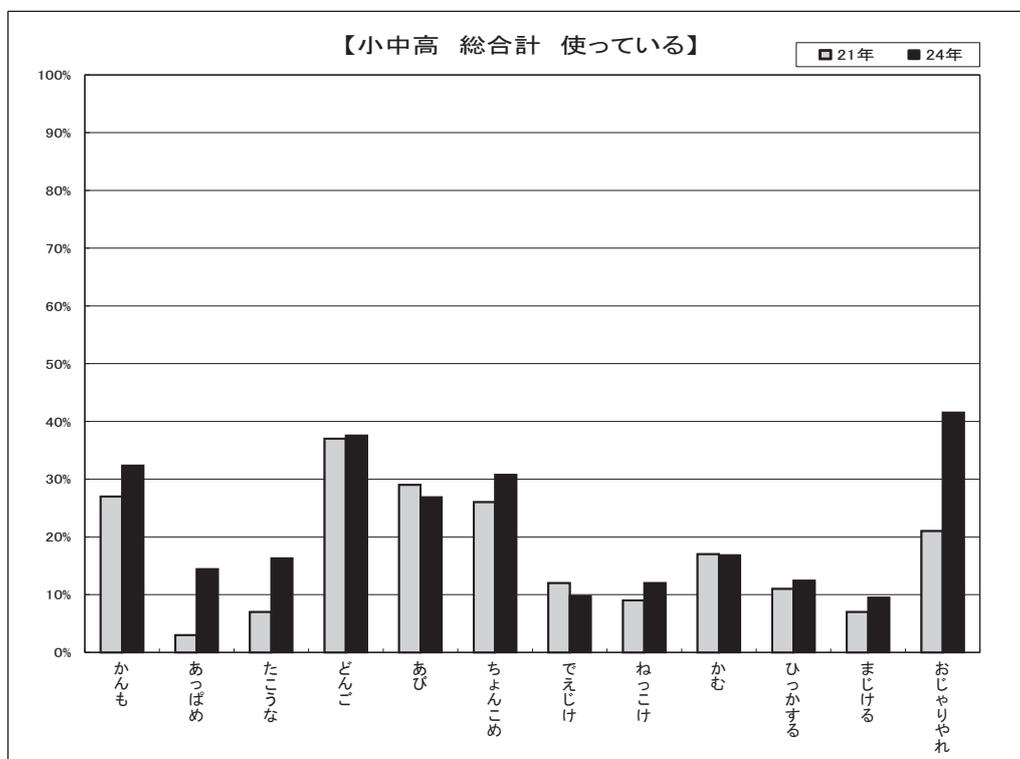


グラフ1 「知っている」比較

表2 「使っている」比較

小中高 総合計 比較
「使っている」748名

調査八丈語	21年	24年	増減
かんも	27%	32%	5%
あっぱめ	3%	14%	11%
たこうな	7%	16%	9%
どんご	37%	38%	1%
あび	29%	27%	-2%
ちょんこめ	26%	31%	5%
でえじけ	12%	10%	-2%
ねっこけ	9%	12%	3%
かむ	17%	17%	0%
ひっかする	11%	12%	1%
まじける	7%	9%	2%
おじゃりやれ	21%	42%	21%



グラフ2 「使っている」比較

以上の分析から「八丈方言を伝える活動」の前途は、相当厳しいものが予想される。特に、30歳代～40歳代の子どもをもつ親世代への継承がない現状では、一層厳しいと感じざるをえない。

②「八丈・島ことばカルタ」の作成

方言を次世代に継承する方法として、「方言カルタ」が有効であるとの考えから、2010年に手製の「八丈・島ことばカルタ」を作成した。絵札は、島在住の人に描いてもらった。2011年には、小学校の全家庭に無料で配布した。家庭の中で、カルタ遊びをしながら、自然に覚えることをめざすとともに、方言を知っている高齢者との交流をめざした。また、当初作成したカルタの読み札は、島の一地域の言葉を載せたのだが、別の地域の人から「自分の地域の言葉が載っていない」との指摘があり、島の五地域のすべての言葉を載せて、改訂版のカルタを作成した。読み札の表には、共通語と三根、大賀郷の2地域の言葉、裏には檜立、中之郷、末吉の言葉を載せたのである。そして、島内の本屋・みやげ屋などで販売を始めた。ちなみに、1セット850円（＋消費税）である。下の写真が五地域の言葉が載っているカルタである。各学校や保育園や家庭でカルタで遊ぶ姿が見られ、カルタ遊びの中から、言葉を覚えるという子どもたちが増えてきている。



③「八丈方言100」を作成し、覚える取り組み

方言を覚えるにはゲーム感覚で、覚えるのが、良いとのことで「八丈方言100」を作成した。10級から1級まで級を設け、各級10の言葉を選んで作成し、学校等に提示し、遊びながら覚えることをめざした。10級は比較的良好に使われる八丈方言にし、だんだん級が上がるにつれ、今はあまり使われなくなってしまった言葉をのせている。各級の言葉には、名詞や動詞、形容詞、文を級ごとに10個配して作った。

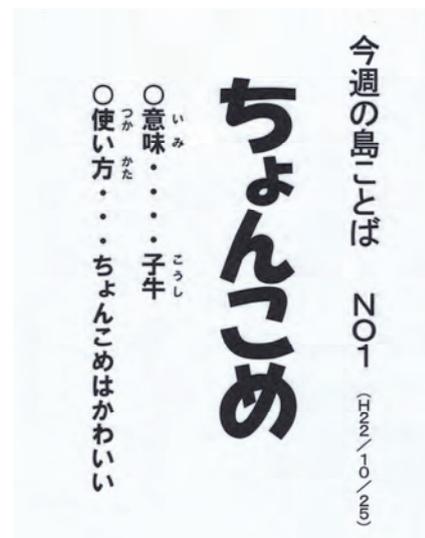
八丈方言100を覚えよう(改訂版)()内の言葉は地域によって違う言葉H24.5改訂 八丈町教育委員会 NO1

級	10級	9級	8級	7級	6級
1	・めならべ	・ちよんこめ (おしょこめ)	・かぶめ	・ほうべえ (ほーびゃー)	・とんめて
2	・あっぱめ	・あび	・くに	・はんけ (ひよーげ)	・ぼんま (ぼっぱ)
3	・おやこ	・どんご	・でーこ (じゃーこ)	・まぐさ (まくさ)	・かんじよ
4	・たこーな	・えーたば (やたば)	・けー (けえ・きー)	・しんべた (しっべた)	・あぶき
5	・こっこめ	・げっすり	・にやっとりめ (とうとうめ)	・づにん	・まん (まに)
6	・われ・わが ・あが・わい	・ごん (こがん)	・へんどうこと	・あっちゃん こっちゃん	・じょーる
7	・でえじきや (じゃーじきや)	・ねっこきや	・えずきや	・はじがましきや	・しゃしきや
8	・ぼーきや	・しょくない	・あてがり (ぞら)	・かまる	・ごらごら
9	・かむ	・やろごん (やろがん)	・ひっかする	・おもうわよーい	・まじける
10	・おじやりやれ	・あに したろ	・どうもよーい	・そご(が)ん だーの	・このかんも(さ つまいも)は うんまきや

④「今週の島ことば」の作成，掲示・・・日常的な取り組み

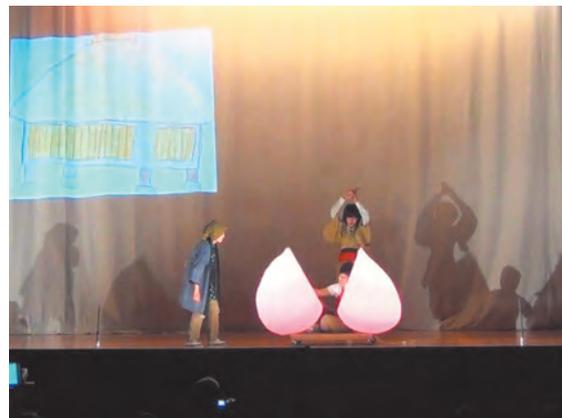
八丈方言を日常的に意識化するために，各小中学校と町役場などに一週に一言ずつ作成し，掲示してもらっている。2010年10月からスタートして，2013年3月末現在98の言葉を掲示している。

各学校では，廊下等で掲示にし，児童・生徒・教職員が日常的に目に触れる機会をふやすとともに，学校を訪れる保護者，地域の人にも見てもらう場として活用されている。



⑤方言劇（小学校の学芸会での発表）

八丈方言を声に出して覚えるには，八丈方言を使った劇が良いと考え，小学校の学芸会で取り組んだ。小学校の地域の話者に協力してもらい，台詞を方言に直した。また，



台詞のイントロネーションなどを祖父母に聞いたりして，方言劇をなかだちとする交流が図れた。学芸会当日は，方言劇に観客から，笑いとともに「懐かしい！」の言葉が聞かれ，八丈方言の入った劇に，会場はなごやかな雰囲気になるばかりでなく，出演した子どもたち教員も貴重な体験を積んでいる。

この写真は，2013年2月に行われた三原小学校での学芸会の一シーンである。台詞の言い回しは，担任の教員ではできないので，保護者や祖父母に聴いてもらい，児童は練習に励んできた。この劇は八丈民話からヒントを得た「桃次郎」である。

すべてが、八丈方言の台詞で演じられ、観客にとって好評であった。2009年度から今までに、島内の小学校で4本の方言劇を行っている。

⑥八丈町教育研究指定校制度の導入で行った八丈町立三原小学校の研究

八丈町の教育課題に取り組む制度として、教育研究指定校制度を設け、2012年度から発足した。その制度の第一に取り上げたのが「八丈方言」の指導カリキュラム化である。2012年度は、八丈町立三原小学校が1年かけて研究を行い、その成果を2013年2月27日発表した。島内の教員、保護者、地域の人に呼びかけ、約130人ほどが出席し、公開研究発表会を開いた。講師に国立国語研究所の木部副所長を招請して、示唆の富んだ助言をいただき、密度のこい研究発表会ができた。町教育委員会も全面的支援して成果は多かった。この成果を受けて、2013年度は小学校の全校で1学年、年間3時間ほど八丈方言の学習を行うことになった。



左の写真は、当日のパネルディスカッションの様子で、パネラーには、地域のゲストティーチャーや保護者も入って、学校側だけでない立場からの意見も出されて、三原小学校の成果や課題も確認できた。

小学校なので、難しい理論より「島ことばは楽しい」という遊び感覚で方言を学習するという研究姿勢が成果をあげていた。また、研究テーマに「八丈方言の学習を通して、島や地域に関心をもつ子供の育成」を設定したので、三原小学校では、この研究を深めるにつれて学校と地域の距離が近づき、その敷居が低くなっていった。当初、八丈方言を話せない、理解できない教員の意識にも変化が生じてきた。地域の人と一緒に学んでいくことが大切であることをつかんだようであった。

2013年度には、中学校の1校が教育研究指定を受けて、中学校での方言学習を研究し、成果を発表する。以降は島の全小中学校で、各学年3時間程度、実施することになる。島の全小中学生は、9年間で合計27時間学習するということである。

⑦教職員研修会

島に赴任するほとんどの教員が、東京や本土からなので、八丈方言については全く知らない状態である。そこで、教職員対象に、都の教育庁八丈出張所と共催して、毎年夏に希望者向けの研修会を行っている。内容は、理論編と実施編を設け、講師には、方言話者を招いて、実際に声に出して学ぶ研修内容であり、八丈方言を身近に体験する機会となっている。

2. 社会教育（生涯学習）での取り組み

①八丈方言講座（4年間に6回実施）

八丈方言の貴重さを知り、広めるために、島民向けに「八丈方言講座」を開催してきた。講師には八丈方言研究者金田章宏千葉大学教授をはじめ、専門的な人とともに、島の方言話者にも話してもらった。第4回には、同じ消滅危機言語地域の与論島から講師を招いた。毎回、島の方言

話者にも話をしてもらったことが、講座の参加者にとって身近であり、親しみやすい雰囲気をつくっている。島民の関心も高く、毎回平均 100 人～150 人程度受講している。しかし、地元出身の若者層（30 歳代～40 歳代）の参加者が少ないのが課題である。
尚、下の写真は、講座の時の写真である。



②八丈・島ことばカルタ大会（2年間に2回実施）

島ことばカルタを作成したので、家庭や小学校、保育園で遊び感覚でカルタを楽しむ子どもたちの姿がみられた。そこで、小学生から高齢者を交えたカルタ大会を企画した。当日は、小学生の参加者が多かったが、保育園生、中学生、大人、高齢者も入り、なごやかに実施された。ルールは八丈島ルールで、絵札だけでなく読み札も並べ、絵札とともに取れるルールで、年齢別の部と交流の部と行っている。読み手には、各地域の人を呼び、その言葉で詠んでいる。小学生から高齢者まで同じ会場に集まり、楽しめるカルタ大会になっている。

高齢者の参加者からは「小学生と一緒にできて、楽しかった」という感想がよせられている。2回目からは、参加賞や賞品を用意した。



カルタ会の様子

③島ことば教室

実際の八丈方言を声に出して体験しようという企画で、方言話者を講師として招き、2012年度に3回連続で実施した。各回ともに20人ほどの参加者があった。特に、島外から来て島に住みついた人たちにとっては、初めての体験ができ、好評であった。

2013年度には、30歳代～40歳代の親と子ども（祖父母と孫）との「親子島ことば教室」を企画した。

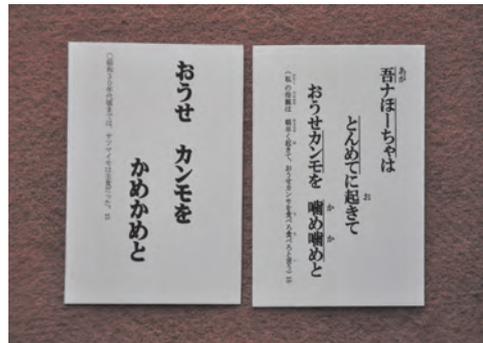
④八丈方言文法講座

八丈方言研究者の金田章宏氏(千葉大学教授)に、島民のために八丈方言の特徴である文法について、2回にわたり講座を開講していただいた。島の人向けに平易に解説していただき、2日間6時間の講義であったが、のべ30人ほどの参加者があった。



⑤八丈島の代表的な民謡「ショメ節」の歌詞100句の収集、作成

八丈島に昔から伝わる代表的な民謡「ショメ節」には、たくさんの八丈方言が入っている。この民謡は、かつては宴会の席上や盆踊りなどには、必ず歌われていたものであるが、最近はカラオケの普及等で歌われなくなってしまっている。そこで、八丈方言が入っている歌詞を収集して、100句にまとめた。「ショメ節」は7・7，7・5形式の歌詞なので、上の7・7，下の7・5の言葉に分けて詠むゲームとして考えた。いわゆる百人一首のルールである。老人会などで何回か開催したが、懐かしさのあまり一緒に歌いだす高齢者もいた。



⑥広がりをもせる取り組み

2009年度からスタートした八丈方言を知り・広める活動であったが、島民に少しずつ知られようになり、理解者が増えてくると共に、島民の間に八丈方言を話すことが恥ずかしいという意識はなくなってきていることを感じる。

- ・高齢者劇団「かぶつ」(八丈方言 ダイダイの意)の方言劇の上演高齢者の芝居好きの素人の人達が集まり、八丈方言による芝居を上演している。高齢者演芸会や保育園・小・中学校で上演してきた。中でも、八丈民謡の「ベニ皿(じゃら)・カケ皿(じゃら)」は、東京での公演を実現した。2013年6月には、「不思議なきのこ」という演目で山梨県の南アルプス市で行われた交流発表大会で演じた。
- ・マスコミが注目して取り上げてくれる機会が増えて、島民外にも活動が知られるようになった。活動を始めて4年経過するが、この間、数多くのマスコミが注目してくれて、メディアで八丈方言のことを取り上げてくれた。活動の様子を島だけでなく、島外にも知られるようになった。NHK、朝日新聞、東京新聞、ラジオ、雑誌などで紹介された。また、島の週刊ミニコミ紙「南海タイムス」にも、度々ニュースとして取り上げて、島民に取り組みを知らせてもらっている。



劇団「かぶつ」公演

「中日新聞」記事

3. これからの取り組みと課題

①「危機言語サミット」(仮称)の実施 2014年度予定

日本の8地域の言語が消滅の危機にあるという発表をうけて、その地域の人たちが集まり、その地域の実態を知り、これからの活動をお互いに支援しながら、横の連携とりあいながら、継承運動を進めていこうという会を2014年に八丈島で開こうと考えている。これまで、活動が八丈島という点であったのを、日本全体の面に広げるといふ発想である。その際には、文化庁、国立国語研究所、沖縄県、鹿児島県、北海道の関係者、各方言の研究者とともに開催できることを願っている。

*開催予定時期 2014年12月

*場所 八丈島

*招請する地域 消滅危機言語の認定を受けた8地域

*招請する予定者 1地域3人程度、各方言研究者(1人)

*2013年度は、準備、広報活動。2014年度は、実施に向けての具体的な活動を行う。

②「島ことば(八丈方言)冊子」(全12ページ)作成、島民に全戸配布

2013年度 八丈方言の価値を全島民に知ってもらい、その文化を後世に伝えるために「島ことば(八丈方言)冊子」を作成、配布し、全島民の意識の向上を図る。

③課題

*次世代に八丈方言を継承するための取り組み

「子ども世代が話さない」ということが、消滅にいたる道であるが、現状では、若い人(30歳代~40歳代の親世代)の意識がそんなに高くない。これらの世代が方言継承に関心を持ち、積極的に継承する担い手になっていく必要がある。そのためには、

1. 親世代への関心を呼び起こす活動の提起
2. 現在八丈方言を話せる祖父母世代から、若い人や子どもたちへの継承

3. 子ども世代が、学校で習ってきたことを、家庭・地域に広める。

***島民への意識の向上**

「こんなことをするのは、懐古趣味である」「なくなってしまうのは、どうしようもない」という意見をもっている人に、八丈方言の価値と活動の意味を伝える活動を展開する必要がある、と同時に新しいアイデアを取り入れ、島民誰もが楽しめる企画を考えるとともに、日常的に島民が触れる機会をもうけられたらと思っている。

おわりに

八丈町の学校教育において、小学校では2013年度より1学年年間3時間、中学校では2014年度より1学年3時間 方言学習を始める予定である。八丈島で学んだ児童・生徒は合計27時間、学習することになる。学校から、家庭や地域に発信する体制ができるので、大いに期待するところである。家庭と学校と地域の中で、学校の役割が果たす役割は大きい。学校で学んできた八丈方言（島ことば）を子どもたちが父母に話し、分からない言葉などは、祖父母に聞く。そこで、祖父母の力を借りて、また子どもに環元させる。そのような循環が実現することは、可能であると思う。学校で学んだことを、家庭や地域で交流することにより、八丈方言のみならず、郷土を愛する児童・生徒に育っていくことを願っている。

最後に、八丈方言を知り・伝える活動のめざすことは、単に、方言の知識を増やすのではなく、島を愛することにつながり、島民に誇りをもつきっかけになると考えている。

島ことば普及活動経過

※2009. 2. 19. ユネスコの危機言語発表

八丈語——日本で一番古い日本語が残る

2013. 10. 08

	H21 (2009) 年度	H22 (2010) 年度	H23 (2011) 年度	H24 (2012) 年度	H25 (2013) 年度(予定含む)
<演劇等> ・文化庁(言語活動。H21年度) ・文科省(コミュニケーション能力向上。H22～24年度) 国立国語研究所	H21 (2009) 年度 ○大賀郷小学校学芸会 1SET (学校申請) ※SET=スパー・エキセントリック・シアター ※アス=中野ケアセンター	H22 (2010) 年度 ○三原中学校歌づくり 5月石野田奈津代 2年生(学校申請) ○三根小学校学芸会 11月～1月 アス 6年生(学校申請) ○末吉小学校学芸会 12月～1月 アス 全校・オープンニング(学校申請)	H23 (2011) 年度 ○大中1年 川柳と表現 ・10月川柳やすみりえ ・11月 表現 アス (NP0 申請) ○末吉小学校表現 4～6年生(発表5年) 10月～11月 アス (NP0 申請) ○大賀郷小学校学芸会 12月～2月 SET 4年生(学校申請)	H24 (2012) 年度 ○三原小(学芸会) 12月～2月 SET 5年生(学校申請)	H25 (2013) 年度(予定含む) ○三原小(学芸会) 12月～2月 SET 4年生(NP0 申請) ※大中と三原中が、方言ではなく体育・ダンスを申請
総合、国語学習 今週の島ことば 島内調査 夏期教職員研修 学校研究テーマ	大賀郷中、小学校 小・中・高校生語彙調査 方言講座2回7・8月	富士中学校、小学校 No1～19 方言講座・2回7・8月	富士中学校、小学校 No20～58 方言講座・2回7・8月 ○末吉小学校(奨励校) ○研究指定校制度発足 H24・25(は方言取組)	富士中学校、三原小学校 No59～98 小・中・高校生語彙調査748 方言講座1回・7月 ○研究指定校制度導入(三原小) 2/27 発表会 ハネダ、カッショウ	三原小学校、三原中学校 No99～ 方言講座2回7・8月 ○八丈町教育研究指定校研究(三原中) 2/5 発表会・講演会(講師:金田章宏)
劇団「かぶつ」公演	○「大きなカブ」小学校全校(他に保育園)		○「バニャとカジャ」全中学校と三根小(図書館祭、東京公演、保育園と老人会、地域)	○「バニャとカジャ」三原小・青空保育園	○「バニャとカジャ」公演・大PTA・家庭支援センター ○「ふしぎなきのこ」公演・大小以外の小・中学校、南アルプス市公演
カルタ作成 その他製作物	手作り → 正式印刷 島ことば100作成	団体、小学校全家庭配布 ショメ節百句手作り作成	5 地域版作成配布(700)増刷 ○医療・身体にかかわる方言一覧作成配布(医療関係、老人ホームなど)	○八丈方言(島ことば)冊子 12 ページ 8000部 ○メのつく言葉カード ○体の言葉等カード ○方言会話集	

紙芝居		桃太郎・手作り (川上)	桃太郎・大判 (A3) サイズ	七名様 (川上)	
島民向け講演会 (八丈方言講座)	○講師—金田章宏 ・方言で語る 2009.11.28 85名参加	○講師—金田章宏 奥山熊雄民話DVD 101名参加 6月13日 ○講師—金田章宏 5地区の方言対話 195名参加 9月4日	○講師—与論島・菊秀史 5人が語る、かるた紹介 151名参加 10.29 ○講師—国立国語研究所・ 木部、千葉大・金田、島の人 3月18日 105名	○9月国立国語研究所調査時 講演会 120名 ○島民向け方言教室6月20人 ○八丈方言文法講座 千葉大学金田章宏 (11月18名、3月10日・16 名)	○国立国語研究所調査結 果報告会・シンポジウム (第7回講座) 11/9、 八丈高校視聴覚ホール 名 ○島民向け親子島ことば 教室7月13・14日(延べ 20人)、9月23日9人 ○八丈方言文法講座(講 師：千葉大学金田章宏)
イベント		○図書館祭 (方言百) 7月	○図書館祭カルタ7/3 ○カルタ大会1月28日 競技73名、ギヤラリー等 100以上	○カルタ大会1月20日、競技 50名、ギヤラリー22名、教委 等9名 (青少年委3名含む)	○カルタ大会1月13日 競技名、ギヤラリー 名、教委等名 (青少年 委名含む)
老人会等			老人会でカルタ紹介	○老人会方言カルタ、ショメ 節カルタ	○老人会方言カルタ、ショ メ節カルタ 11/14、2/ 14 ○食育講演会での支援 10/20
町予算関係	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育
国などの調査等		東北大学(?)アンケート		○国立国語研調査 (9月) ○琉球大学調査 (1月) ○方言シンポジウム 3/20、沖縄県立博物館・ 美術館 (パネラー：茂手木)	○国立国語研究所調査結 果報告会・シンポジウム 11/9、八丈高校視聴覚ホ ール
取材したもの			沖山恒子、川上清展		
その他		道徳地区公開講座	○むつみ第2保育園方言劇 ○末吉庁祭 方言劇 ○観光協会ツイッター掲載		
取材されたもの		○「おれとじいちゃんの島こと ば」—NHK 3月放映 ○朝日新聞 (2回) ○ジパング ○南海タイムス	○「おじやりやれん運動会」 —NHK 12月放映 ○NPO 環境教育推進協 →You tube 「方言ってなん だろ？」 ○MX テレビ2/8 放映 ○南海タイムス	○NATIONAL GEOGRAPHIC ○東京新聞 ○中日新聞 ○朝日新聞 ○都政新報	○読売新聞